

島のむんがたり

腹痛、蠅と蚊、滋養強壮……

徳之島町郷土資料館では、小林正秀氏が昭和28年（1953年）に亀津で創刊した『南西日報』を閲覧することが出来ます。徳之島の「今」を記録し、活字として島民に伝えた自前のメディアといえます。今回はその『南西日報』に掲載された、薬に関するさまざまな広告に注目したいと思います。

「一回の服用で確実に駆虫するダイアス（新回虫駆除薬）」という見出しの広告（左図）が昭和35年2月2日付一面に掲載されています。回虫は寄生虫のひとつ

つで、昭和40年代までは国民の約4割が回虫症を罹っていたといわれています。公衆衛生が向上したことにより現代日本では感染事例を聞くことはあまりないのですが、当時の徳之島においても全国の傾向と同様、回虫症に悩まされていたことがうかがえます。

同じく虫といえば蠅・蚊がいまです。島の人びとが眠るとき、蚊帳が使われなくなったのはいつ頃のことでしょうか。「ひとふきふけは蠅も蚊もコロリ御家庭にどうぞ強力殺虫剤アース」という広告（右下図）に目が留まりました。家の中にはいつてくる蠅や蚊との戦いに奮闘する当時の人びとの姿が目に見えます。

バブル時代には「24時間戦えますか」という売り文句をもった栄養ドリンクが登場しましたが、早くも昭和35年2月4日付の同紙にも「強力ミネビタル夏まけ予防・産前産後・発育促進に」という広告があります。効用の第1に

「夏まけ予防」を掲げており、全国的商品ではあるものの酷暑の徳

之島と相性が良いという広告主の判断が表れているのでしよう。

同様に徳之島の気候を念頭に置いたと思われるのが、「湿疹くさかゆみおむつかぶれ」という効用を記した「ゼム」というチューブ入りの塗り薬の広告です。現在でも特に湿度の高い梅雨・夏にかけて、乳幼児のおむつかぶれを心配する保護者の方々は多いのではないのでしょうか。

『南西日報』に掲載された薬に関する広告をいくつか紹介してきましたが、広告の背景に、当時の徳之島の人びとの生活と時代の特徴をみることができるようになります。

（町誌編さん室 竹原祐樹）

問 郷土資料館

☎ 0997-82-2908

新発売 三共水虫薬 数量 10元 1000000 153 1000000

肩こり、腰の痛み、
うつみ、くじき、
神経痛、頭痛、歯痛

こりと痛みに!!
トクホン

一三枚入 五〇円
二八枚入 一〇〇円
六〇枚入 二〇〇円

●頭痛にノーション●

1回の服用で

確実に駆虫する

ダイアス

（新回虫駆除薬）

京都市 日本新薬KK

ひとふきふけは

蠅も蚊もコロリ

御家庭にどうぞ

強力殺虫剤

アース 150円

木村製薬

兵庫県赤穂市板越